

下野市立吉田東小学校

1 学校課題

学力向上を目指す算数学習の在り方を求めて（2年次）
～基礎・基本の定着を図る、生き生き授業づくり～

2 研究計画

（1）課題設定の理由

平成27年度、本校では、児童一人一人が夢や希望に向かって力強く自己実現を図っているようにするためには、確かな学力を育成することが重要であると考え、児童が生き生きと学習に取り組みながら基礎・基本を身に付ける算数の授業の在り方について研究した。

今年度は、昨年度の研究を引継ぎ、児童の基礎的・基本的な知識・技能のさらなる習得と、児童が主体的に生き生きと学ぶ活動をめざし、本課題を設定した。

（2）研究の仮説

次のような取組を進めていけば、児童一人一人に学び方を身に付けさせることができ、児童一人一人の基礎的・基本的な学力向上が図れるのではないか。

（基礎・基本）

「算数の手引き」や「計算大会」等を活用し、系統的、継続的に指導を工夫することで、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図れるであろう。

（思考力・判断力）

既習事項を生かして課題解決するために、考えを図や式などに表し説明する活動を工夫することで、友達と学び合いながら、思考力・判断力・表現力が高められるであろう。



1年生「たし算」問題づくり

3 研究内容

（1）生き生き授業づくり

①算数学習の基本的な流れの見直しと系統的な指導

「算数の手引き」の作成・活用

②児童の育てたい資質・能力・態度を明確にした単元計画の作成及び実践

アめあての持たせ方の工夫（課題の捉えさせ方の工夫）

- ・児童の興味・関心を引きつける問題提示
- ・考える必要性が感じられる問題づくり
- ・課題解決の見通しと方法

イ算数的活動の工夫・・・ねらいに合う活動（学習指導要領解説P10～11参照）

- ・具体物を数えたり、操作したりする活動
- ・計算の仕方や考えを説明する活動
- ・目的に応じて表やグラフを選び活用する活動等
- ・言語活動を充実させて、深まりや広がりにつなげる活動
- ・デジタル教科書やWeb教材等のICTを活用した授業展開

ウまとめと振り返りの時間の充実

- ・1時間の流れが分かる板書
- ・めあてにふさわしいまとめ
- ・達成感・満足感を味わえる振り返り



2年生「100より大きい数」

数える活動の工夫

(2) 日常の取組

① 家庭学習の充実

- ・年2回（7月・12月）、学習アンケートを実施し、児童の実態を把握し、指導改善を図る。
- ・週1回、家読の日設定。

② 百マス計算大会、家読発表会等、学年の枠を外した学びの場の設定

③ ノート指導の工夫

- ・児童の思考の流れが分かるノートづくり

④ 表現活動の工夫

- ・基本話型を生かし、相手に分かりやすく説明できるような指導支援
- ・言語活動を通して、考えを深めたり新しい考えに共感したりする学び合いの支援



百マス計算大会

(3) 研究実践授業

- | | | | | |
|---|----|----|-------------|----------|
| ① | 2年 | 算数 | 「100より大きい数」 | (6月16日) |
| ② | 3年 | 算数 | 「あまりのあるわり算」 | (7月11日) |
| ③ | 1年 | 算数 | 「たしざん」 | (10月19日) |
| ④ | 6年 | 算数 | 「比」 | (11月14日) |
| ⑤ | 4年 | 算数 | 「垂直、平行と四角形」 | (12月19日) |



3年生「あまりのあるわり算」考えの発表

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 職員研修で、算数科の授業の流れ、めあてに合った振り返り、文章問題のアンダーラインの引かせ方、学習のきまり、家庭学習の4か条などについて改めて話し合いをして、共通理解を図り、同一歩調で進めることができた。
- ② 課題を設定するとき、子供たちの身近なことから考えたので、抵抗なく意欲的に取り組むことができた。また、課題を提示した後、子供たちのつぶやきからめあてを作ることができた。
- ③ 具体物などを使い、自分の言葉で説明する算数的な活動を工夫することができた。ペア学習では、どの子も活動し、考える授業を展開することができた。全体で発表をすることが苦手な児童も、自分の考えを伝えることができた。さらに、友達のやり方を見て、良い方法を取り入れたり考えを広げたりするなど、学びの実感につながった。
- ④ 百マス計算大会（足し算・引き算・かけ算）を全学年一斉に繰り返し行ったことにより、競い合いの意識が芽生え、計算力が少しずつ確実に定着してきた。



6年「比」考えの伝え合い

(2) 課題

- ① ペア学習やグループ活動に入る前の、自己解決の充実を図る。しっかり自分なりのイメージをもたせてから話し合いをさせることで、より充実した活動となるよう工夫する。
- ② イメージができていても、それを言語化することが難しい児童もいる。ヒントカードなどの支援策をさらに工夫するとともに、日頃から言語力を付ける指導を取り入れていく。
- ③ 様々な教材教具を活用することで、児童は生き生きと活動することができるが、児童の実態や反応を十分に予想し、より有効に活用できるようにする。
- ④ 児童にとって、分かりやすいめあてと、めあてに合った振り返りの仕方を工夫していく。